

## 山科文学探訪

# 「志賀直哉旧居跡から『家守綺譚』の舞台四ノ宮を歩く」

案内人：鏡山 次郎氏（ふるさとの会事務局長）

小谷 昌代氏（弦楽ふるさとの会）

酒谷 佳子氏（アトリエ・ウーフ主宰）



志賀直哉が、大正12年から約1年半住んだ山科の邸宅は、数寄屋造りの平屋で、四ノ宮川から水を引いた大きな池が、庭いっぱいになり、どの部屋からも見えていたそうです。志賀が奈良に転居した後、その邸宅に住まわれた酒谷氏の祖父が、貴重な写真を残されています。その写真は、今から百年前に、このあたりに造られた和風の邸宅の様式をよく表しており、それは、『家守綺譚』の主人公が家守した邸宅を彷彿させます。川から引かれた池には、鮎が泳ぎ、河童が訪れる、そんな錯覚さえも覚えます。その旧居跡から『家守綺譚』に書かれた当時の面影を感じながら、鏡山氏の案内で旧東海道を四ノ宮まで歩いてみませんか。

『家守綺譚』の一節に「駅舎の南側は、旧東海道であるから・・・今日はその先の宿神さんのところで、管弦の集いがあったのですよ・・・もともとは琵琶法師たちの集まりで、それが、琴や尺八などをたしなむ盲人の祀りになつたらしい・・・人康親王とって・・・」（「ツリガネニンジン」）とあります。四ノ宮の地は、琵琶法師の祖と崇められる人康親王に関する史跡や伝承が多く残されています。その人康親王が琵琶を弾いたと伝えられる諸羽神社境内で、四ノ宮琵琶奏者の小谷氏による美しい琵琶の調べをお楽しみいただけます。



日時：平成29年5月21日（日） 午前9時～12時 雨天決行

集合場所：京都市山科図書館（京都市山科合同福祉センター4F）

定員：先着20人

事前申込制：5月11日（木）午前9時30分より、山科図書館に電話または来館

京都市山科図書館： 京都市山科区竹鼻四丁野町34-1 電話（075）581-0503